

「凜」とした日本人

「ぜひ、連れてきなさい」当市出身のニューヨーク新潟県人会長の大坪賢次さんが背を押して下さったことが出発点でした。3年間足止めされ、ついに実現した米国への中学生海外派遣研修事業。この夏、希望が叶わなかった高校生の特別参加枠も設け、市内の中・高校生19人が参加しました。

大坪さんを陰で励まされたのが奥様の理恵さんだったそうです。「進路を決める前の中学生達を」と。残念ながら昨年亡くなられていて、2日先行した訪米団に遅れてニューヨークで合流した私はすぐに大坪邸へ御焼香に。私たちを歓迎いただいた県人会のみなさんとのお会のご挨拶ではご協力への感謝の気持ちを述べた後、「この場に奥様がおられたらどんなに喜んでいただけたか」と私から。会長も大きくうなずかれ、みなさんから「今見てくれていますよ」との声も。こみ上げるものがありました。

国際連合日本政府代表部では面会いただいた石兼公博特命全権大使が「日本への世界からの信頼は大きく、それを失ってはならない」と若者たちに語られたことが強く印象に。大坪さんはこんなお話

も。自身の事業の成功について「さぞかし大変なご苦労をされたでしょう」とよく問われるが、自分は「一度も苦労をしたと思っていない」そう言う相手は怪訝そうに。「今日より明日が面白い。後ろを振り返らずそう信じてやってきただけ」と。「ただ…、ここは異国。頭を天井にくっつける様に背筋を伸ばして歩き、どこで誰に見られ声を掛けられても恥づかしくない気持ちでやってきた」と語られた。

両者のお話に、古く新渡戸稲造がその著『武士道』で世界に知らしめた宗教観を超える日本人の「軌範」を感じざるを得ませんでした。県人会の方一人ひとり、国連や領事館で働く若い職員さんたちにも、また彼の地で勉学に勤む留学生たちにも「侍」のような凜とした立ち姿が重なる。若い中・高校生たちにもそれは強烈な光線のように思えたのではないかと。

第1期生は次期につながるがんばりを見せてくれました。この旅（派遣研修事業）を続けたい。いつか理恵さんが眠るサンフランシスコの墓前で奇跡のようなこのプロジェクトの軌跡を報告できるように。

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

シリーズ
第125回

タンザニア連合共和国 グローリー ヘンリー さん



私の国はこんなところ

タンザニアは、東アフリカに位置する世界で最も美しい国の1つです。タンザニアでのみ採れる鉱物のタンザナイトやキリマンジャロ山、滝や川、セレンゲティ、ンゴロンゴロ、マニャラなどの国立公園や動物保護区、ザンジバル島（地元ではウングジャ島と呼ばれる）など天然資源が豊富なことで知られています。タンザニア人は美しい文化と伝統のダンスに誇りを持ち、フレンドリーで温厚です。タンザニアを旅すれば、都会の雑踏から離れ、豊かな自然、野生動物や果てしなく続くビーチなど自然の核心に触れ、忘れられない思い出となることでしょう。タンザニアには心に響くアフリカの情熱があります。

南魚沼市に住んで感じたこと

私は、幸運にもスキー場に恵まれた南魚沼に住んでいます。今年の1月に、スキーとスノーボードをしました。人生初めての挑戦でした。どちらもとても興奮するスポーツでしたが、スノーボードのほうが楽しいと思いました。来シーズンはスノーボードをたくさん練習して楽しく滑れるようになりたいです。冬が待ち遠しいです。



編集
後記

9月は自転車のイベントが多く開催されるなど、市では自転車を活用したまちづくりを進めています。雪国魚沼GCRの大きな看板が国道291号線沿いの水尾地内に設置されているのをご存じでしょうか。近くを通った際には、ぜひご覧ください。(M.A)



今月の
表紙

湯沢町・南魚沼市・魚沼市の2市1町は新潟県で初となるサイクルツーリズムの推進モデルルート「雪国魚沼 Golden Cycle Route」を設定やレンタサイクルを行うなど、自転車を活用した地域活性化をめざしています。自転車で乗り、心も体もリフレッシュしませんか。

市民の動き 令和5年7月末日現在 ()は対前月比

●人口 53,414人(+10) / 男 26,147人(+5) 女 27,267人(+5) ●世帯数 20,215戸(+36)